



かどや通信

第31号

発行日：平成31年3月

発行行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

明治・大正・昭和のオルガンでコンサート 鳥羽マーチングスポーツ少年団特別出演！

鳥羽長尾オルガン協会が所有する古いオルガン4台を使った「第七十八回かどや屋下がりがりコンサート」次代に繋ぐオルガンの調べが二月十七日に開催された。

同協会はオルガンの音色を後世に伝えるためにオルガン奏者の育成にも力を入れている。そのため今回は、第一部に教会のオルガニストとして活躍している田畑ちさ子さんをはじめ、ピアノは得意だがオルガン歴は浅い石井千恵子さんと河邑昌子さんが登場し、3曲ずつ得意な曲を演奏した。その後、3台のオルガンを使って



パッヘルベルのカノンを合奏。曲の重厚さとオルガンの魅力が十分にアピールされた感動的な演奏となった。

第二部は長年、長尾オルガンの

演奏に携わってきた巽耕一さんがバッハの宗

教曲をはじめジャンルの異なる3曲を演奏。アンコールには、第一部でもオルガンに合わせて唱歌等を歌った鳥羽市民コーラスはまおぎの皆さんが、巽さんの伴奏で「翼をください」を合唱した。



今回は、コンサートの冒頭に鳥羽マーチングスポーツ少年団が特別出演した。昭和五十年に発足し、百人近いメンバーを有していた時期もあったが、徐々に団員が減少し、

今年、鳥羽小学校六年生の重見和希君と山本陽高君の二人だけとなった。今春の二人の卒業と共に同団は伝統ある歴史の幕を閉じることになる。今回が二人のラストステージだったが、「栄光の架橋」等3曲を力強く演奏し、観客からは惜しめない拍手が送られた。

鳥羽長尾オルガン協会とは..

鳥羽大庄屋かどや(旧：廣野藤右衛門宅)の蔵に長年眠っていた明治三十年代製造のベビーオルガンと呼ばれる鍵盤二十九鍵の長尾オルガンが平成十一年に発見され、翌年修復されたのを契機に創設され、かどやはもちろん、鳥羽市内を中心に随時コンサートを展開している。また、使われなくなったオルガン数台も寄贈されており、今回は長尾オルガンに加え、大正十年代の西川オルガン(49鍵)と昭和初期のヤマハオルガン(49鍵と61鍵が使われた。



精巧な立体絵画に驚きの声！ シャドーボックス展

一月の展示は「額の中の3Dアート シャドーボックス展」だった。シャドーボックスとは、複写した絵画数枚をパーツ毎に切り抜き、何層も積み重ねることによって立体的になり、影（シャドー）が出来ることから命名されたそうだ。十七世紀にヨーロッパで流行し、米国にも広がったが、日本での認知度は高くはない。今回は、志摩市磯部町出身で名古屋市在住の丸井靖子さんと丸井さんが主宰するシャドーボックス教室「アトリエみるふい」の生徒さんの計十一名が出演した。

会場には、「モダンデザイン之父」と呼ばれる英国のウィリアム・モリスの作品をモチーフとしたものや、バラやカキツバタ等の花の作品等三十五点が並んだ。

シャドーボックスの知名度が低いため、かどやの見学に来て、たまにたま出会ったという人がほとんどだったが、細かな作業を積み重ねた精巧な作品に「すごい！すごい！素晴らしい！」と称賛の声が続いた。

「私も作ってみたい」との要望も



多く寄せられ、二月六日に体験教室を計画したが、あつとつ間に満員となり、

急ぎよ追加コースを設けた。

体験教室は、複写した絵をパーツ毎に切り取ることから始まった。細かい作業に集中するためシーンと緊迫した空気が流れ、時間も予定をオーバーしたが、作品が完成すると皆表情がゆるみ、満足そうに作品を手にしていった。「もっと作ってみたい！」との声が続き、みるふい倶楽部として定期的に教室を実施することになった。



次回は、五月十八日(土)十三時。ご希望の方は、お申込みは早め。

今年もリピーター続々 雛飾りとあでやかな吊し飾り

二月の展示は、毎年恒例の「かどやのひな祭り」だ。明治時代に作られた廣野家特製の御殿雛と、江戸時代に鳥羽で青果店として繁盛していた土路屋所有の江戸期のお雛様、昭和中期まで酒蒸しまんじゅうが人気だった武蔵屋所有の昭和初期の御殿雛が飾られた。

同時に、昨年大好評だった志摩市の大屋美枝さんが今年も古布で作った吊し飾りや干支のぬいぐるみなど約百点を展示してくれた。作品の八割は新作で、吊し飾りには踊り傘に花やさるぼぼ、うさぎ等を飾ったものなど大屋さんの発想力が光り、今年もリピーターが続出した。大屋さんは昨年、見学者からの「私も吊るし飾りをつくりたい」というリクエストに答え、昨年三月に手芸倶楽部を開講。毎月第二土曜日午後一時から、毎回一点ずつ吊し飾りの作り方を伝授している。



縁の下の仲間たち⑦ ひな飾りの舞台裏

お雛様の飾り付けは当初、かどやの事を熟知している教育委員会のフミタカさんが一人でコツコツと準備してくれていた。ところが、三年前に「あんたからも飾り付けを覚えてんか」とのお達しがした。

そんな日が来るとは予想だにしておらず、あわてふためいたが、フミタカさんに頼りすぎたことを深く反省。縁の下の仲間たちに救済を頼み、丸一日がかりで組み立てた。特に、明治時代に作られたかどやの御殿雛は、作りが華奢で人形も小さく困難を極めた。御殿の土台の配置もまるでパズルのようで、四苦八苦。それでもなんとか完成し、翌年はこの経験が生きるだろうと思いきや、時の流れとともに貴重な記憶も忘却のかなた。毎年雛飾りを前にすると「はて？」と頭をひねることになる。しかし皆で知恵を出し合ったおかげで、今年も百年以上前のお雛様をお客様に見ていただくことができた。

一階の雛飾りは、ユウジさんとヨネちゃんが汗を流した。

(下の写真は、江戸期のお雛様の飾り付けに知恵を絞っているカヨちゃんとおせうちゃん、マーちゃん)



今年も鳥羽小生がやって来た

鳥羽小学校の三年生二十五名が二月二十八日、社会科授業の一環で今年もかどやにやって来た。

この授業は、平成二十七年から毎年行われており、かどやに残されている昔の生活道具を通して当時の暮らしを学んでいる。



一行が到着すると、かどやの所蔵品調査を担当した鳥羽市教育委員会の野村文化財専門員が、玄関でかどやの概略を解説し、その後台所に移動して江戸時代から昭和中期まで使われていた様々な生活道具を用途も含めて紹介した。

生徒たちには、予め調査課題が与えられており、概要説明が終わると、それぞれが課題を解くため館内を隈なく歩き回った。二階にはボランティア学芸員の力ヨさんが待機しており、子どもたちからの質問に丁寧に対応。明治期に改修された一階

の座敷(応接間)では明治・大正・昭和期に製造された足踏みオルガンが展示されており、ピアノとは異なる弾き方や音色に興味津々だった。最後に台所に集合し、先生が感想を求めたところ、「はい」「はい」と何人もが手をあげ「教科書に載っている以外にもたくさん道具を見ることが出来て、勉強になりました」と元氣よく答えていた。

「おいしい」と大評判!

今年も盛況!! 味噌作り教室

昨年二月に味噌作り教室を実施したところ、出来上がった味噌が「めちゃくちゃ美味しい」と大好評。昨年末頃から「今年の日程が決まったら教えて」というリクエストも寄せられた。そこで、二月十三日に第二回味噌作り教室を開催。今回も希望者が多く、九時と十時半からの二部制で行った。

指導は、昨年同様、紀北町の



老舗・河村(こうじ屋)三代目の河村幸信さんだ。大豆は当日の朝、こうじ屋さんが柔らかく蒸してくれたものをポリ袋に入れてつぶすところから始まった。結構力の要る作業だが、参加者の六割はリピーターとあって、テンポよく作業は進んだ。参加者たちは完成した味噌樽を抱えながら「去年作った味噌がとにかく美味しかったので、今年も楽しみ」と嬉しそうに話してくれた。

《縁の下の仲間たち》

ユウジ・メモ

ユウジさんは昨年三月からかどやのニューフェースとして活躍している。町内会や金刀比羅宮の役員としても活動しているため、かどやには週三日の出勤だが、大工仕事が得意で、創意工夫もお手の物。使い勝手の悪かったものが、どんどん改善されている。事務所の土産物コーナーは狭くて商品が並べにくかったが、どこからか見つけてきた大きな板を活用して拡張された。駐車場の表示も大きい文字で見やすくなった。仕事の準備も早め早めにテキパキと行ってくれて大助かりだ。

ところが、パソコンの前に「ユウジ・メモ」が貼り出されると、震え上がってし

まう。ユウジさんは「かどや通信」や毎月の行事案内の配布も担当しており、ユウジ・メモはそれらの締切を明記したものが、黄色い用紙に大きな字でかかれており、締切厳守の部分にはピンクのラインマーカーまで引いてあるのだ。

新聞作りは嫌いではないが、結構しんどい作業なのだ。締切が近づき焦っている時に「まだですか?」と催促されるのは辛い。ユウジ・メモも静かだが大きいプレッシャーになっている。

今もユウジ・メモに見下ろされながら格闘中だ。メモのお蔭でなんとか締切に間に合うといいのだが…。

スーパーガイド誕生!

かどやでは館内案内を大切にしており、スタッフにはまず案内を勉強してもらおう。ユウジさんも一週間たらずでガイドデビューを果たしたが、スタッフ以外にもスーパーガイドと呼びたくなる人がいた。吊し飾り製作者のヨシエちゃんだ。展示中に覚えたのかスタッフが忙しそうにしていると展示会場の二階だけでなく、一階も案内してくれる。しかも案内を通してお客様と親しくなり、事務所のお土産コーナーでは、さりげなく売り上げにも貢献してくれる頼もしいガイドなのだ。

一月ならずでは恒例イベント

《かるた会に小学一年生奮戦》

「第六回かどや新春かるた会」百人一首を楽しもう！が一月十三日に開催された。

昨年は常連の大人たちに交じって伊勢市から小学六年生が参加したが、今年は鳥羽市の小学一年生が四年生のお姉ちゃんと一緒に参加した。

常連の参加者たちは、一年生の少年にとっては、おじいちゃん・おばあちゃん世代だが、大人たちに囲まれてもひるむこともなく伸び伸びとゲームを楽しんでいた。

百人一首は授業の一環で行われるそう、得意の札もあり、札が取れると大喜びする姿がかわいく、大人たちの笑顔を誘っていた。

一方、お姉ちゃんは冷静沈着なしっかり者で、時には弟をいさめたりするのだが、そのやりとりが実に微笑ましく、和やかな雰囲気広がっていた。

とはいうものの、常連組は得意の札は譲れないと、和やかな中にもピリッとした空気も流れ、古き良き時

代の日本のお正月が蘇ったようだった。最後は、これも恒例の餅入りぜんざいに舌つづみを打って、お開きとなった。

《琴の響きが春を告げる》

今年も新春恒例の屋下がりコンサートは、伊勢正派松朋会小山社中の皆さんによる「琴の弾き初め」だった。尺八の演奏も加わり、日本の正月ならではのひと時が流れた。

第一部は、「六段の調」をはじめ、古典の曲が演奏され、第二部は、唱歌の「砂山」「かくれんぼ」「まりと殿様」等の昭和世代には懐かしい曲が演奏された。第二部では演奏に合わせて観客も歌い、正月気分を楽しんだ。



時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

◆◆貸部屋の案内◆◆
かどやを有効にご利用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご利用ください。詳細は、かどやへ。
電話〇五九九―二五―八六八六

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 平成31年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで平成30年度は2月末現在で348名の方にご登録いただきました。これからも一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、更にこの輪を広げたいと思います。平成31年度も引き続き是非ご登録・ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成31年度(平成31年4月1日～翌年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751